

STANDARD
DICTIONNAIRE
FRANÇAIS
JAPONAIS
NOUVEAU

NOUVEAU
DICTIONNAIRE
STANDARD
FRANÇAIS-
JAPONAIS

新スタンダード仏和辞典

鈴木信太郎 中平 解

朝倉季雄	朝比奈誼	石井晴一	伊藤 晃
井村順一	小林 茂	佐々木明	鈴木康司
竹内信夫	田島 宏	月村辰雄	富永明夫
鳥居正文	西永良成	松原秀治	三浦信孝
	三宅徳嘉	家島光一郎	

NOUVEAU
DICTIONNAIRE
STANDARD
FRANÇAIS-JAPONAIS

新スタンダード仏和辞典 革装

© S. Asakura 1988

1988年4月1日 初版発行

定価 4300 円

著 者 鈴木信太郎 中 平 解

朝倉季雄 朝比奈 誼 石井晴一
伊藤 晃 井村順一 小林 茂
佐々木 明 鈴木康司 竹内信夫
田島 宏 月村辰雄 富永明夫
鳥居正文 西永良成 松原秀治
三浦信孝 三宅徳嘉 家島光一郎
Estrellita Wasserman Michel Wasserman

発行者 鈴木 莊 夫

発 行 所 東京都千代田区 株式 大修館書店
神田錦町 3-24 会社
電話 03-294-2221 (代) 振替 東京9-40504

装 幀 山 崎 登
図 版 井 村 治 樹
ニューデザイン東京

組版・製版・印刷 共同印刷株式会社
製 本 牧 製 本

Printed in Japan
ISBN 4-469-05105-7

序

本辞典の前身『スタンダード佛和辞典』が刊行されたのは1957年5月、今から30年前のことである。この辞典の編纂が、どのような状況下に行われたかは、故鈴木信太郎先生の序に詳しい。

1945(昭和二〇)年空襲によって東京は焼野原となり、終戦の後、混沌とした時代が来た。焼残った書庫に十五坪を継ぎ足して蟄居しながら、私は暗澹たる気持で世相を眺めてゐた。その時、大修館主人鈴木一平氏の訪問を受けた。息子同志が中学校で友達だったからである。用件は、佛和辞典を私に編纂してくれという頼みである。私は前述のやうに佛和辞典が1921年以來一度も新編纂されなかつたのを残念には感じてゐたが、私自身としては到底その任とも思はず、また爲すべき他の専門的な仕事を持つてゐたので、逡巡せざるを得なかつた。然し一方に於いて、われわれフランス文学語學を専攻するものは、現在の辞典を早く編纂し直すことが、われわれの義務であると痛切に感じてゐた。そこで、編纂者を集めてこの事業を進めてゆくことを私が責任を以て實行するのが、恐らく辞典を作成する最も確實な最も可能な方法であらうと信じたから、心友辰野隆君に相談すると、早速やつてみると強く勧められた。私は、辞典編纂の方法と費用とスタッフと時間について熟考した。

私は先づ中平解君に手紙を書いた。1947(昭和二二)年九月八日附である。朝倉季雄君にも相談する手筈を調べた。三宅徳嘉君にも頼む準備をした。それはキティー颱風に襲はれる直前であつた。中平君は郷里の四國に歸つてゐて、いくら待つても返事が来ない。中平君が私の焼残り書庫に現れたのは、一ヶ月後の十月九日であつた。静岡縣三島に疎開したままの朝倉君も、東京に居居つてゐた三宅君も、十月十一日に私の書庫に来てくれた。そして私は辞典の編纂が可能であることを茲に確信した。中平君の家族を四國から東京附近に移すため、私の埼玉に所有した屋敷を檢分に出掛けたのは十月二十五日だつた。十月三十日に第一回の編纂會議を大修館で開いた。十一月一日には三宅君が結婚式を挙げ、十二月二日には中平君の家族が私の屋敷に入つた。かうして編纂の態勢が整つて、仕事が本格的に始つたのであつた。

其後、三宅君の渡佛に伴ひ、家島光一郎君、松下和則君に参加して貰ひ、更に武者小路實光君、田島宏君の協力をも得た。そして私自身も後には全てを放擲して、この辞典のために毎日の全時間を費した。更に最後には私の顧問として渡邊一夫君にも加つて貰つた。

このスタッフによる10年の努力の末に世に問われた辞典は、我が国の仏語・仏文学研究史上に、一つの時代を画する事件であつた。事実、ある時期以後の多少とも専門的なフランス語学習者で、『スタンダード佛和辞典』の恩恵に与らなかつた者は皆無であらう。因に数字をあければ、このオレンジ色の表紙で親しまれた辞典の発行総数は現在までに百万部を超え、『新スタンダード仏和辞典』執筆者の約半数も、それに拠つてフランス語を学び始めたのである。

だが鈴木先生が序の最後で述べておられるように「辞典には永久に完成はない」。永久に完成がないばかりか、放置すれば古びて行く。刊行後10年に満たぬ1965年に、鈴木先生を監修者とし、戦後めざましい発展を遂げた言語学の成果を踏まえ、社会の新しい需めに応え得るような改訂新版を刊行しようという企画が立てられたのはまさにそのためである。数えてみればその時からすでに20年余の歳月を経ている。このように膨大な時間を要したのは、一つには、新版準備と並行して編纂の進められた『スタンダード和仏辞典』(1970年刊)の執筆に、我々のうちのかなりの者が参加しており、さし当ってはそちらの仕事に全力を注がねばならなかつたためであり、一つには、1975年に出された増補改訂版に、ほぼ2年という予定外の時間を費したためであるが、わけても最大の原因は、原稿作製中に内外において優れた辞典が相次いで刊行され、すでに

出来上っていた部分の全面的な再検討を迫られたためである。

その間我々は、鈴木先生、渡邊一夫先生、家島光一郎先生、松原秀治先生を喪うという不幸に見舞われたが、他方、まさに『スタンダード』で育った世代の参加を得、1979年末には、印刷に回し得る原稿が九割方完成した。だが、辞典の質を決定するのはむしろそれに続く作業である。個々の執筆者の癖を出来るかぎり匡し、語と語の間に張りめぐらされた網の目状の相互関連を再現すべく、その時点から、時には全面改稿とも言えるような校正の仕事が始まった。各執筆者の担当分の校正刷りを、他の執筆者二人が綿密に検討して助言を与え、担当者はそれを容れて納得の行くまで加筆・訂正し、更に再校の段階でも、新たに別の執筆者が異なる視点から示唆・助言を与えるという、当然と言えば当然のことながら、辞典編纂における理想的な手順を踏み得たのは、最高のものと望む大修館書店の意志と、各執筆者の意志とが一致していたからである。20年と言えば客観的にはいかにも永い時間だが、当事者にとってはいつの間にか過ぎた20年でもあった。

思えばその間、我々は実によくの方々のお世話になった。各分野の専門家諸氏に適切な御教示をいただけなかったら、この辞典は今日存在し得なかったであろう。また佐伯俊雄部長に率いられた編集陣の作業はまこと掛け替えのないものであった。更に特筆して感謝すべきは、我々の度重なる改稿やおびたしい加筆・訂正に、実に精緻な技術で対処された共同印刷のヴェテラン諸氏である。また、多くの資料提供に進んで応じて下さった各官公庁、フランス大使館、民間諸団体など、お世話になったすべての方々、すべての機関の名をここに連ねることはとうてい不可能である。

さて、こうして出来上った本辞典の出来栄の程はいかがであろうか。その点に関して当事者自らが云々するのは差し控えたい。ただ一つ、この辞典が、各語の「生態」を便宜的に崩して按配することなく、しかもそれを可能なかぎりわかり易く提示しようと、さまざまな工夫を凝らしたという点で、他に類のないものであることだけは強調しておきたい。

最後に鈴木先生の言を再度引かせていただくなら、「辞典には永久に完成はない」。利用者諸賢の御叱正を俟ち、更に完成に向けて努力を傾けることは、各執筆者がそれぞれ心に決めているところである。

1987年 春

著 者 一 同

編纂方針

この辞典は、最近20年間の語彙論・辞書編纂法の成果をふまえ、フランス語の生態を、現代を中心
に記述することを目的としている。従って、社会の急速な変貌を反映するフランス語の現状を的確に提示
することを旨とした。しかし、長い文化伝統を保持しているこの言語の特質にも十分に注意を払ったことはい
うまでもない。

執筆にあたっての基本方針は次の諸点である。

1. 見出し語

1. 一般語は、最新版の *Le Petit Robert 1*, *Petit Larousse illustré* などの標準中辞典
の規模を規準とし、近・現代フランス語の各領域について、必要十分な語彙を収録した。新語・略
語・固有名詞・動詞活用形などは、組織的検討のうえ一般フランス語の理解に必要な範囲で収
録した。さらに、接頭辞・接尾辞・語の構成要素も、その造語能力を重視して積極的に収録した。
2. 客観的な資料に基づいて語の出現頻度を調査し、見出し語の頭の上段に*印(書きことばで頻
度の高い語)、下段に*印(話しことばで頻度の高い語)を付し、その重要性を示した。なお、*印の語
は活字を大きくして目立たせ、重要な文法語は活字を変えて強調した。

2. 発音・語原・関連語

1. 発音については、必ずしも従来の標記法によらず、新しい立場から、より機能的な標記を採用した
(付録「発音について」参照)。
2. 語の歴史的・文化的背景、および語相互間の有機的連関を示唆するため、語原ならびに関連
語の指示を行った。

3. 語義・用例

1. 意義・用法の区分に当っては、特に各語義間の論理的・心理的連関に留意し、語の全体像を
体系的に示すことに努めた。
2. 現代口語を運用する上で重要な位置を占める語義を選択し、これをゴチック体で示した。
3. 語句の生きた用法を明確に伝えるため、訳語には必要に応じて意味上・文法上の関連説明を
添えた。用例については、基本的・典型的な表現と同時に語結合の慣用を有効・適切に例示し
た。成句・慣用句の類も、各語義区分の中に配置した。

4. 図版その他

1. フランス人の日常生活や教養・文化・歴史に関わる事物を視覚的に示し、語義の立体的理解
の一助とするため、各種の図版を多数挿入した。
2. 重要な文法語については、多岐にわたるその用法を要約した一覧表を設け、検索の便を計った。

凡 例

1. 見出し語

- (1) 見出し語は A, B, C 順に配列した。固有名詞・略語・語の構成要素(接頭辞・接尾辞を含む)および名詞・形容詞・動詞の変化形なども見出し語に加えた。
- (2) 同形でも語原が異なるか、語義が大きく異なる語は必要に応じて別見出しとして扱い、右肩に数字をつけて区別した。同一綴りの見出し語は、大文字・小文字・語の構成要素の順に記し、アクセント記号を持つ語はそのあとに置いた。なお同じ語で綴りの一部のみが異なる場合は検索に支障がない限り並記した。
- (3) 代名動詞としてのみ使用される語や、冠詞・前置詞などをつねにともなう語が見出しとなる場合は、代名詞 *se*, 冠詞・前置詞などを()内に入れ、次のように記した。

rebeller (se) → se rebeller
suspens (en) → en suspens

Havre (le) → le Havre

- (4) **基本語彙** 見出し語の左端に * 印を添えて示した。上段の * 印は *Trésor de la langue française* の頻度調査に基づき、19・20 世紀の文学作品(延べ語数約 7 千万語)のうち出現頻度 1,000 以上のものに付した(約 4,400 語)。下段の * 印は口頭言語の頻度調査に基づき作成された *Le Français fondamental, 1^{er} Degré* のリストに準拠した(約 1,400 語)。上・下段に * のつく語は、活字を大きくして強調した。なお、見出しではなくても若干の成句に上記リストに従って * 印を付した。
- (5) **重要文法語** *Le Français fondamental, 1^{er} Degré* の文法語のリストに準拠して「重要文法語」を選定し、特別な活字を用いて提示した。また、文法的機能をもち、かつ頻度の高い動詞もこれに加えた(計約 140 語)。
- (6) **派生語** 接尾辞の機能から容易に語義が理解できる派生語は、使用頻度が高くない限り独立項目の見出し語とせず、語義も省略し、◆ を先立てて基になる見出し語項目中に示した。

rempailler [rãpajɛ] v. t. (椅子の)わらを詰め替える。◆ **rempailage n. m.**

→ **rempailage n. m.** は「動作」を示す名詞形成の接尾辞 -age によって「わらを詰め替えること、わらの詰め替え」

licite [lisit] a. (利益・手段が)合法的な、適法の。◆ **licitement ad.**

→ **licitement ad.** は副詞形成の接尾辞 -ment によって「合法的に、適法に」

agronomie [agrɔnɔmi] n. f. 農学。

→ **agronomique a.** は形容詞形成の接尾辞 -ique によって「農学の」

◆ **agronomique a.**

語義が自動詞・他動詞などいくつかの項目にわたって関連する場合は、改行して — の位置に◆ をそろえて示した。

endommager [ãdɔmaʒ] <dommage>

→ **endommagement n. m.** は「行為、行為の結果」をあらわす名詞形成の接尾辞 -ment によって「損害を与えること；損害を受けること」の両方の意義を持つ。

④ **v. t.** 損なう；(に)損害を与える。[...]

— **s'~ v. pr.** 損害を受ける。

◆ **endommagement n. m.**

2. 発音

- (1) 発音は見出し語の直後に [] を用いて国際音声記号で示した。必要に応じて特殊な補助記号を用いた(「発音記号表」および 図 5 参照)。
- (2) 1 語で 2 種以上の発音がある場合は、並記するか、省略可能を示す(), 交代可能を示す()を用いて略記した。

***but¹** [by[t]]

→ 発音は [by] または [byt]

fascisme [fa[s]ism]

→ 発音は [faʃism] または [fasism]

- (3) 見出し語を並記した場合、第 2 の語の発音が同じ時は [~] で示した。

ramerau [ramɔr], **ramerot** [~] n. m.

3. 名詞・形容詞・動詞の変化形

- (1) 性・数によって変化する名詞・形容詞は、見出し語のうち変化する部分をイタリック体太字で示し、それに対応する発音を次のように示した。

***actif(ve)** [aktif, -v] a.

→ 男性形 **actif** [aktif], 女性形 **active** [activ]

corail (pl. **aux**) [kɔraj, -o] n. m.

→ 単数形 **corail** [kɔraj], 複数形 **coraux** [kɔrɔ]

légal(ale) (pl. **aux**) [legal, -o] a.

→ 男性単数形 **légal** [legal], 女性単数形 **légale** [legal], 男性複数形 **légaux** [lego], 女性複数形 **légales** [legal]

ただし、複数を示す末尾の s は、s の付加が例外的になる場合を除き表示しない。また複数が不変である末尾が -s, -x, -z の名詞には複数不変 (inv.) の表示をしない。合成語は 1 語とみなして、その性・数変化も上記の原則に従って記した。

avant-bras [avãbrã] n. m.

→ 単数形・複数形ともに **avant-bras** [avãbrã]

- (2) **動詞の活用形** 不定詞の検索しにくい重要な動詞の活用形については、活用形全体または語幹を見出し項目とし、その不定詞を指示した。場合により法・時制を略語でこれに付した(図6参照)。

ai [e] avoir の直現。

→ avoir の直説法現在形

boiv [bwav] -e, etc. → boire.

→ boire, boives, boivent は boire の活用形
(接続法現在形, 直説法現在形)

4. 語原・関連語

- (1) 語原は、借用語については、語義の理解を助けると思われる範囲内でその語の由来する言語名を〔 〕に記した(略語表(1)参照)。原綴を添えた場合もある。

ex æquo [egzeko] [ラ] l. ad.

partenaire [partənɛr] [英 partner] n.

- (2) 一つの見出し語が2語の合成に由来する場合には必要に応じて(...+...)の形で示した。

***aîn** [afɛ] [à+fin]

- (3) 固有名詞から転用された普通名詞, または固有名詞から派生する形容詞・名詞については、その固有名詞を〔 〕内に記した。

diesel [djezel] [D~, 発明者] n. m.

alpin(e) [alpɛ, -in] [Alpes] a.

- (4) 重要語について、関連語の指示が有益である場合にはそれをくく内に記した。

***déplacer** [deplase] [place] v. t.

***joyeux(se)** [ʒwajø, -øz] [joie] a.

5. 動詞の活用パターンの指示

parler 型, finir 型の規則動詞を除き□内に巻末「動詞変化表」の番号を記した。図5は一つの動詞が[4]と[5]の二つの活用パターンにわたる場合, 図6は一つの動詞が[7]あるいは[6]の活用パターンに従うことを示す。

6. 品詞

- (1) 一般の見出し語では発音標記の〔 〕の直後(語原・関連語などがあればその直後)に、◆で提示される派生語では綴りの直後に記した(略語表(2)参照)。

- (2) 一つの見出し語が二つ以上の品詞として用いられる場合, また一つの動詞に他動詞, 自動詞, 代名動詞のうち二つ以上の用法がある場合は、——によってそれらの区別を行った。ただし、疑義がなければ2品詞を並記したことがある。

7. 語義

- (1) **基本区分** 語義は1., 2., 3. ...の記号で区分し, 時に ; で細分した。一つの語義に対していくつかの訳語を列挙する場合は, を用いた。

- (2) **上位区分** 意味・用法の上から上位区分する場合は, それらの語義をあらかじめ**A, B, C** ...の記号で分類した。必要に応じて, さらに上位区分 **I, II, III** ...の記号で統括した。

descente [dɛsɑ̃t] n. f. **A** 『下りること』 **1.** 下降; [スキー] 滑降(競技)。[...]

B 『下ろすこと』 **1.** (荷物などを)降ろすこと, 積み荷下ろし。[...]

C 『下ってゆくもの』 **1.** 下り坂, 下り斜面, 下り勾配。[...]

- (3) **重要語義** *Dictionnaire fondamental de la langue française, Dictionnaire du vocabulaire essentiel, Dictionnaire du français langue étrangère, Niveau 2, Dictionnaire Hachette juniors* を参考とし, 学習者にとって必要な語約7,400について約12,600の重要語義を選びゴシック体で示した。

- (4) 語義を明確にするために動詞の目的語, 形容詞の被修飾語, 名詞の補語などを示す必要がある場合は, それらを()内に入れて訳語の前に置いた。

***citer** v. t. **1.** (作家・言葉などを)引用する; (証拠として)引く, 挙げる。

***occupé(e)** a. p. **1.** (部屋・席・職場などが)ふさがっている, (国・地域が)占領された。

- (5) 前置詞をともなって使われることの多い語については, 前置詞とその訳語を()内に示した。

emplir v. t. (de で) 満たす, 一杯にする。

nuisible a. (à) (に) 有害な, (を) 損なう。

- (6) 専門語指示は【 】内に, 古語・文語・方言など語のレベルや用法上の指示は『 』内に記し, それぞれ語義の直前に示した(略語表(1)参照)。

【物, 化】→ 「物理学」または「化学」用語。

『古/文』→ 古語あるいは文語

【物】『古』→ 古い物理学用語

『古/文』→ 古語かつ文語

- (7) 常用されている英語などに代ってフランス政府が使用を薦めている語を『官薦語』として示した。

***matériel(le)** n. m. [...] [情報] ハードウェア [logiciel の対. 官薦語]。

8. 用例・成句

- (1) ある語義に属する用例・成句は, その語義区分の中に記述した。その際, 先ず基本例を示し, 特殊例・成句はそのあとに配列することを原則とした。

- (2) 用例・成句の中では, 見出し語またはその語幹に代えて～を用いた。同じ意味をもつ二つ以上の用例・成句は; を, 文の例は / を, それぞれの間に介して並記した。

***fin** n. f. [...] à cette ~; à ces ~s 上記の目的(意図)で。[...] **C'est la ~ de tout.** /

『俗』C'est la ~ des haricots! もうおしまいだ, 手のつけようがない。

- (3) 全く同形の用例・成句が一つの見出し語項目の中に2回以上現れる場合は, 右肩に番号を付して検索の便を計った。

- (4) 特に重要な構文あるいは用例・成句は太字体で示した。また, 構文の指示, あるいは用例・成句のあとにそれを用いた例が続く場合は, 共通部分をイタリック体で示した。

***assez** ad. [...] **C'est ~ de + n.** ...だけで十分だ。C'est ~ d'une fois. 一度で済んだ。

***huit** a. num. card. [...] ~ jours 1週間。dans ~ jours 1週間後に。

9. 項目相互の関連

- (1) ある語が他の語と綴りのみ異なる同一語であったり、ある語義がほぼ同じ意義をもつ語・語句に対応する場合には、その関連を＝で示した。

tannin *n. m.* = **tanin**.

escorteur *n. m.* [海] 護送船 (= *navire* ~).

- (2) 用例・成句は、できる限り重複を避け、原則として一つの見出し語を選んでその項目中に配置した。別の見出し語中にも、その用例・成句を収録して、⇒で参照すべき項目を指示した場合もある。

***glace** *n. f.* 4. [料理] (ケーキなどの) 糖衣; 濃縮肉汁. *sucré* ~ ⇒ *sucré*¹ 1.

10. 記号

使用した記号の主な用法は次の通りである。

- ~ 見出し語またはその語幹、発音の重複を避け、その代わりに用いた (2. (3), 4. (3), 8. (2) 参照)。なお、誤解を生ずる恐れのない場合には直前の訳語、あるいは直前の見出し語の訳語に代わる。

chiote *a.* キオスの。 — **C** ~ *n.* ~ 人。 → — **Chiote** *n.* キオス人。

- () 既出の用法 (1. (3), 2. (2), 7. (4), (5) 参照) の他、括弧内の語句が直前の語句と交換・代入し得ることを示す。代入によって訳語が変わる場合にはその訳語を () で示した。

***juillet** *n. m.* *en* (au mois de) ~ 7 月に。 → *en* ~ または *au mois de* ~ 「7 月に」。

***espace**¹ *n. m.* ~ *métrique* (euclidien) 距離 (ユークリッド) 空間。
→ ~ *métrique* 「距離空間」, ~ *euclidien* 「ユークリッド空間」。

- [] 括弧内の文字・語句が省略可能であることを示す (2. (2) も参照)。

gascon(n)isme *n. m.* → **gasconnisme** あるいは **gasconisme**

heure *n. f.* [livre d'] **H** ~ *s* 時禱書。 → *livre d'* **H** ~ *s* または **H** ~ *s* 「時禱書」。

なお、[-] で示されている合成語は、ハイフンなしでも綴りうることを示す。

servo(-)moteur *n. m.* → **servo-moteur** または **servomoteur**

- 《 》 分類上の規準、用法上の指示、文法的説明、各種の解説などに用いた。

***arriver** *v. i.* 《助動詞は être》 **A** [人・移動する物が主語] 1. 到着する, 着く; [...]

B 《事件・事柄などが主語》起こる。 [...]

a priori [apriori] [ラ] 《a posteriori の対》 1. *ad.* [...]

- 《 》 掲示・標語・イタリック体で示された雑誌名などのフランス語に用いた。

fumer *v. i.* 《Défense de ~》 「禁煙」。

N. R. F. 《略》 [仏文史] 《Nouvelle Revue Française》 「新フランス評論」 誌。

- 『 』 作品名 (イタリック体で指示) の日本語訳に用いた。

suif *n. m.* **Boule de** ~ 『脂肪の塊』 《モ・パッサンの出世作》。

- その前に逐語訳を記して訳語の由来を示す場合に用いた。

broncher *v. i.* Il n'y a si bon cheval qui ne bronche. (蹟かぬ良馬はいない) → 弘法も筆の誤り。

- ⇒ 他項目の用例・成句 (9. (2) 参照)、図版、付録などを参照させるために用いた。

- その語の記述が与えられている不定詞 (3. (2) 参照)、名詞・形容詞の男性単数形などの見出し語を参照させるために用いた。また語の構成要素のうち変異形から代表形へ送るのにも用いた。

douce [dus] → **doux**. **j'** [3] → **je**.

- ◆ 同じ語義に属する用例・成句が、意味・語法などの観点からその語義内で特別なグループを形成するとき、この記号を用いて一括した。

***état** *n. m.* **A** 《状態》 1. (物の) 状態, [...] ◆ 《成句》 à l'~ + **adj.** (de + *n.*) ... の状態で。 [...]

maintien *n. m.* 2. (伝統・状態などの) 維持. [...] ◆ [軍] ~ sous les drapeaux 除隊延期。
~ au corps (罰を受けた期間に見合う) 除隊延期。

- † 気音 (有音) の *h* (*h aspiré*) など、そこでリエゾン、エリジョンが妨げられることを示す。

- ◇ REM. 主として文法的注記に用いた。

***tant** *ad.* **A** 1. そんなに [...] ~ **que**¹ 《que 以下は結果節》あまり... ので。 Il a ~ couru qu'il est tout en nage. [...] ◇ REM. 動詞が複合時制の時は **tant** は過去分詞の前。

11. 特殊記号

- (1) **[PREF]**, **[SUFF]**, **[ELEM]** はそれぞれ接頭辞、接尾辞、語の構成要素 (それ自体で自立的な意味をもち、語形成に重要な役割を果たす造語成分) を示す。

- (2) **[INV]** は代名動詞の *se* が間接目的語であり、過去分詞が *se* に一致しないことを示す。

***laver** *v. t.* [...] — **.se** ~ *v. pr.* [...] 2. **[INV]** 自分の... を洗う。 *se* ~ les dents après les repas 食事の後に歯をみがく。

上記の場合、複合過去形では例えば Elle s'est lavé les dents [...] となり、lavé の一致は行なわれない。

- (3) **図**, **図** はそれぞれ図版、付録の意。

発音記号表

I. 母音

	前 舌		奥 舌	
	非 円 唇	円 唇	非 円 唇	円 唇
口 むろ 母音	[i] ami	[y] tu		[u] vous
	[e] été	[ø] peu		[o] pot
	[ɛ] paix	[ɔ] le		[ɔ] note
	[a] papa	[œ] neuf	[a] pâte	
鼻 母音	[ɛ̃] fin	[œ̃] un	[ɑ̃] an	[ɔ̃] on

補助記号 下点 [.] { [ɛ] [œ] [ɔ] では狭めを表す, すなわち [ɛ] [œ] [ɔ] より狭く発音される.
[ɑ̃] では奥舌調音, すなわち [ɑ] と発音される可能性を示す.

II. 半子音(半母音)

[j] yeux	[ɥ] huit	[w] oui
----------	----------	---------

III. 子音

		閉 鎖 音	側 面 音	狭 窄 音	破 擦 音
口 むろ 子音	無 声	[p] pipe [t] tête		[f] feu [θ]* zampo [s] son [ʃ] chat [x]* jaléo [h]* halo	[ts]* tsar [tʃ]* tchèque
		[k] carte			
	有 声	[b] bon [d] don [g] gai	[l] lire [ʎ]* llano	[v] vin [z] rose [ʒ] page [r]** rire	[dz]* scherzo [dʒ]* jazz
鼻 子音	声	[m] maman [n] nom [ɲ] ligne [ŋ]* camping			

* 印をつけたもののうち [θ] (英語 thing) [ts] [tʃ] [dz] [dʒ] [x] (ドイツ語 Buch) [ʎ] (イタリア語 egli, スペイン語 allá) [ŋ] (英語 king) は外来(借用)語だけに, [h] は間投詞や情意的表現だけに現れる音.

** 正確には [ʁ]. 便宜上 [r] を使う.

補助記号 下点 [.]: 子音接触による同化, すなわち無声子音の有声化と有声子音の無声化を表す.

略 語 表 (1)

【医】	医学	【社】	社会学	【病理】	病理学
【遺伝】	遺伝学	【写】	写真	【舞】	舞踊
【印】	印刷	【狩】	狩猟	【服】	服飾
【宇宙】	宇宙工学	【宗】	宗教	【物】	物理学
	宇宙航行	【修】	修辞学	【文】	文学
	宇宙旅行	【宗史】	宗教史	【文史】	文学史
【泳】	水泳	【商】	商業	【簿】	簿記
【映】	映画	【城】	築城術	【蜂】	養蜂
【衛】	衛生学	【釀】	醸造	【法】	法律学
【園】	園芸	【情報】	情報科学	【法医】	法医学
【織】	織物		情報理論	【紋】	紋章学
【化】	化学		情報工学	【冶】	冶金
【絵】	絵画		サイバネチクス		金属工学
【解】	解剖学		コンピュータ		金属工業
【海】	海洋学	【植】	植物	【薬】	薬学
	海語	【神】	神学	【郵】	郵便
【革】	皮革	【心】	心理学	【力】	力学
	鞣革	【人類】	人類学	【陸上】	陸上競技
【学】	学校用語	【数】	数学	【林】	林業
【楽】	音楽	【生】	生物学	【倫】	倫理学
【カト】	カトリック	【政】	政治学	【論】	論理学
【株】	株式用語	【聖】	聖書		
【機】	機械	【税】	税制		
【気】	気象学	【生化】	生化学		
【機工】	機械工学	【生理】	生理学	【ギリ】	ギリシア語
	機械工業	【染】	染色	【ラ】	ラテン語
【弓】	弓術	【船】	船舶	【英】	英語
【教】	教育学		造船	【米】	米語
【菌】	菌類	【測】	測量	【ド】	ドイツ語
【金工】	金属細工	【地】	地学	【イ】	イタリア語
【空】	航空学(術)		地形学	【ロ】	ロシア語
【軍】	軍隊用語		地質学	【日】	日本語
【経】	経済学	【彫】	彫刻	【中】	中国語
【劇】	演劇	【地理】	地理学		
【建】	建築学	【哲】	哲学	【術】	学術用語
【語】	言語学	【鉄】	鉄道	【古】	古語
【工】	工学	【天】	天文学		古用法
【光】	光学	【電】	電気		古典
【考】	考古学		電気工学		古典
【鉱】	鉱物学	【電子】	電子工学	【やや古】	やや古語
【古ギリ】	古代ギリシア	【陶】	製陶術	【話】	話語
【古ローマ】	古代ローマ	【動】	動物	【俗】	俗語
【昆】	昆虫類	【統計】	統計学	【卑】	卑語
【採】	採鉱	【土木】	土木(工学)	【隠】	隠語
	採石	【農】	農業	【蔑】	蔑んで
【財】	財政学		農学		貶めて
【蚕】	養蚕	【馬】	馬術	【戯】	戯れて
【史】	歴史		馬具		ふざけて
【紙】	製紙	【美】	美学	【文】	文語
【歯】	歯科		美術	【詩】	詩語
【磁気】	磁気学	【美史】	美術史		

略 語 表 (2)

<i>a., adj.</i>	adjectif	形容詞
<i>a. dém.</i>	adjectif démonstratif	指示形容詞
<i>a. exclam.</i>	adjectif exclamatif	感嘆形容詞
<i>a. f.</i>	adjectif féminin	女性名詞にのみ用いる形容詞
<i>a. ind.</i>	adjectif indéfini	不定形容詞
<i>a. interr.</i>	adjectif interrogatif	疑問形容詞
<i>a. inv.</i>	adjectif invariable	女性及び複数不変の形容詞
<i>a. m.</i>	adjectif masculin	男性名詞にのみ用いる形容詞
<i>a. num. card.</i>	adjectif numéral cardinal	基本数形容詞
<i>a. num. ord.</i>	adjectif numéral ordinal	序数形容詞
<i>a. p.</i>	adjectif participial	過去分詞から来た形容詞
<i>a. poss.</i>	adjectif possessif	所有形容詞
<i>a. qualif.</i>	adjectif qualificatif	品質形容詞
<i>a. rel.</i>	adjectif relatif	関係形容詞
<i>adv.</i>	adverbe	副詞
<i>adv. interr.</i>	adverbe interrogatif	疑問副詞
<i>adv. rel.</i>	adverbe relatif	関係副詞
<i>art. déf.</i>	article défini	定冠詞
<i>art. ind.</i>	article indéfini	不定冠詞
<i>cond.</i>	conditionnel	条件法
<i>conj.</i>	conjonction	接続詞
<i>imp.</i>	impératif	命令法
	impersonnellement	非人称的に
<i>ind.</i>	indicatif	直説法
<i>inf.</i>	infinitif	不定詞
<i>int.</i>	interjection	間投詞
<i>inv.</i>	invariable	複数不変
<i>l. a.</i>	locution adjective	形容詞句
<i>l. adv.</i>	locution adverbiale	副詞句
<i>l. conj.</i>	locution conjonctive	接続詞句
<i>l. prép.</i>	locution prépositive	前置詞句
<i>l. v.</i>	locution verbale	動詞句
<i>n.</i>	nom	名詞
<i>neut.</i>	neutre	中性
<i>n. f.</i>	nom féminin	女性名詞
<i>n. m.</i>	nom masculin	男性名詞
<i>n. pr.</i>	nom propre	固有名詞
<i>pl.</i>	pluriel	複数
<i>p. p.</i>	participe passé	過去分詞
<i>p. prés.</i>	participe présent	現在分詞
<i>prép.</i>	préposition	前置詞
<i>pr.</i>	pronom	代名詞
<i>pr. dém.</i>	pronom démonstratif	指示代名詞
<i>pr. ind.</i>	pronom indéfini	不定代名詞
<i>pr. interr.</i>	pronom interrogatif	疑問代名詞
<i>pr. num. card.</i>	pronom numéral cardinal	基本数代名詞
<i>pr. pers.</i>	pronom personnel	人称代名詞
<i>pr. poss.</i>	pronom possessif	所有代名詞
<i>pr. rel.</i>	pronom relatif	関係代名詞
<i>qc</i>	quelque chose	何
<i>qn</i>	quelqu'un	人
<i>sing.</i>	singulier	単数
<i>subj.</i>	subjonctif	接続法
<i>v. i.</i>	verbe intransitif	自動詞
<i>v. imp.</i>	verbe impersonnel	非人称動詞
<i>v. pr.</i>	verbe pronominal	代名動詞
<i>v. t.</i>	verbe transitif	他動詞

協 力 者 名

本辞典を編纂するに当たり、専門語について下記の方々のご教示を仰いだ。ここに記して厚くお礼申し上げる(敬称略)。

秋 保 清 武	阿 部 宗 明	有 吉 歌 子	飯 山 敏 道
池 田 一 郎	石 井 慶 一	石 田 卓 夫	石 綿 敏 雄
逸 身 喜 一 郎	稲 本 洋 之 助	井 口 昌 平	今 井 正 隆
弥 永 康 夫	植 村 益 次	浦 環	浦 本 昌 紀
蝦 名 義 和	大 沢 清 輝	大 路 樹 生	太 田 卓 男
太 田 義 武	大 津 俊 克	大 野 実 雄	大 間 博
大 八 木 義 彦	岡 橋 孜	小 川 待 子	奥 谷 喬 司
小 椋 康 夫	小 場 瀬 純 子	甲 斐 直 彦	兼 元 俊 徳
川 原 治 之 助	菊 池 真 一	私 市 正 年	木 田 元
木 下 光 一 夫	木 村 陽 二 郎	草 場 安 子	栗 原 雅 直
桑 野 幸 夫	小 堀 巖	駒 田 知 彦	是 永 東 彦
近 藤 等	笹 井 明 護	佐 々 木 健 一	佐 藤 正 千 代
真 田 昌 彦	沢 昭 生	沢 田 克 弥	清 水 重 勇
清 水 伯 夫	杉 崎 昭 憲	杉 山 栄 亮	杉 山 光 信
鈴 木 和 晋	陶 山 正 夫	諏 訪 貞 夫	関 口 行 雄
竹 下 政 孝	武 田 信 夫	千 葉 幹 夫	千 葉 洋
辻 内 順 平	土 屋 健 子	敦 賀 陽 一 郎	鶴 見 策 郎
利 光 哲 夫	富 永 郁 稔	富 永 良 子	富 山 佳 昭
中 込 英 次	中 野 稔 之	中 平 信 吉	中 村 広 明
西 島 敏	二 宮 宏 枝	根 本 順 宏	芳 賀 純 隆
服 部 厚 子	林 瑞 枝	原 田 宏 郎	日 高 敏 均
平 井 和 秀	平 島 正 章	平 田 徹 郎	広 山 敬 枝
福 井 文 雅	藤 田 厚 生	藤 山 家 徳	堀 保 元
堀 文 雄	松 木 美 刈	三 田 達 一	三 本 村 凌 二
宮 城 音 弥	宮 治 弘 之	三 宅 理 重	本 村 隆 三
森 柄 根	森 川 日 出 貴	安 武 紀 一	藪 中 村 一 利
山 崎 柄 根	山 下 昭 夫	山 田 宏 一	
吉 田 禎 吾	渡 辺 義 愛	辻調理師専門学校	

André GARDELLA

René JACQUES

Marc-Daniel MARGULIÈS

Claude ROBERGE

Marguerite YANAGIDANI

著 者 一 同

主要参考書目

Dictionnaire alphabétique et analogique de la langue française, ROBERT, P., 6 vol., Société du Nouveau Littre, 1953-64; Supplément, 1970. / *Dictionnaire commercial*, l'Académie des Sciences commerciales, Hachette, 1979. / *Dictionnaire commercial et financier*, SERVOTTE, J.-V., N.V. Scriptoria, 1978. / *Dictionnaire de la foi chrétienne*, LA BROSSE, O. DE et al., 2 vol., Éditions du Cerf, 1968. / *Dictionnaire de la prononciation*, LEROND, A., Larousse, 1980. / *Dictionnaire de la Prononciation française*, WARNANT, L., Duculot, 1964. / *Dictionnaire de la prononciation française dans son usage réel*, MARTINET, A. et WALTER, H., France-Expansion, 1973. / *Dictionnaire de la psychanalyse*, FEDIDA, P., Larousse, 1974. / *Dictionnaire de l'informatique*, MORVAN, P., Larousse, 1981. / *Dictionnaire de poésie et de rhétorique*, 2^{ème} édition, MORIER, H., P.U.F., 1975. / *Dictionnaire des Anglicismes*, REY-DEBOVE, J. et GAGNON, G., Le Robert, 1980. / *Dictionnaire des fréquences*, Centre de recherche pour un trésor de la langue française (C.N.R.S.), 7 vol., Klincksieck, 1971. / *Dictionnaire des Mots contemporains*, GILBERT, P., Le Robert, 1980. / *Dictionnaire des néologismes officiels*, FANTAPIE, A. et BRULE, M., Franterm, 1984. / *Dictionnaire des verbes français*, CAPUT, J. et J.-P., Larousse, 1969. / *Dictionnaire du français contemporain*, DUBOIS, J. et al., Larousse, 1971. / *Dictionnaire du français contemporain illustré*, DUBOIS, J. et al., Larousse, 1980. / *Dictionnaire du français langue étrangère*, DUBOIS, J. et DUBOIS-CHARLIER, F. et al., Larousse, Niveau 1, 1978; Niveau 2, 1979. / *Dictionnaire du français non conventionnel*, CELLARD, J. et REY, A., Hachette, 1980. / *Dictionnaire du français vivant*, DAVAUD, M., COHEN, M. et LALLEMAND, M., Bordas, 1972. / *Dictionnaire du vocabulaire essentiel*, MATORE, G., Larousse, 1963. / *Dictionnaire étymologique des noms de famille et prénoms de France*, DAUZAT, A., Larousse, 1951. / *Dictionnaire fondamental de la langue française*, Nouvelle édition, GOUGENHEIM, G., Didier, 1976. / *Dictionnaire Hachette de la langue française*, GUERARD, F., Hachette, 1980. / *Dictionnaire Hachette juniors*, BONNEVIE, P. et AMIEL, P. et al., Hachette, 1980. / *Dictionnaire Usuel Illustré*, PRUVOST-BEAURAIN, J.-M. et al., Quillet-Flammarion, 1980. / *Duden Français*, Bibliographisches Institut, 1981. / *Encyclopédie du bon français dans l'usage contemporain*, DUPRE, P., 3 vol., Trévis, 1972. / *Französisches Verblexikon*, BUSSE, W. et DUBOST, J.-P., Klett-Cotta, 1977. / *Frequency Dictionary of French Words*, JUILLAND, A., Mouton, 1970. / *Grammatisches Wörterbuch Französisch*, BONNARD, H. et al., Verlag Lambert Lensing GmbH, 1970. / *Grand dictionnaire encyclopédique Larousse*, DUBOIS, C. et al., 10 vol., Larousse, 1982-85. / *Grand Larousse de la langue française*, GUILBERT, L., LAGANE, R., NIOBEY, G. et al., 7 vol., Larousse, 1971-78. / *Grand Larousse encyclopédique*, DUBOIS, C. et al., 10 vol., Larousse, 1960-64; Supplément 1, 1968; Supplément 2, 1975. / *Guide de la vie pratique*, DAVILLE, D. P., Larousse, 1978. / *Harrap's New Standard French and English Dictionary*, MANSION, J.-E., LEDESERT, R.P.L. et LEDESERT, M., 2 vol., George G. Harrap & Co. Ltd, 1972. / *Larousse du XX^e Siècle*, sous la direction d'AUGE, P., 6 vol., Larousse, 1928-33; Supplément, 1953. / *Le Bon Usage*, 10^e édition, GREVISSE, M., Duculot, 1975. / *Le Français fondamental*, 1^{er} Degré, Institut National de Recherche et de Documentation Pédagogiques, 1959. / *Le Grand Robert de la langue française, dictionnaire alphabétique et analogique de la langue française*, 2^{ème} édition, ROBERT, P. et REY, A., 9 vol., Le Robert, 1984-85. / *Le Petit Robert*, ROBERT, P., Société du Nouveau Littre, 1967, 1977, 1985. / *Le Robert & Collins, dictionnaire français-anglais anglais-français*, ATKINS, B.T. et al., Société du Nouveau Littre, 1978. / *Le Robert méthodique, dictionnaire méthodique du français actuel*, Nouvelle édition, rédaction dirigée par REY-DEBOVE, J., Le Robert, 1983. / *Les pronoms adverbiaux en et y*, PINCHON, J., Droz, 1972. / *Lexis, dictionnaire de la langue française*, sous la direction de DUBOIS, J., Larousse, 1975. / *Logos, grand dictionnaire de la langue française*, GIRODET, J., 3 vol., Bordas, 1976. / *Majuscules, abréviations, symboles et sigles*, DOPPAGNE, A., Duculot, 1978. / *Micro Robert*, Société du Nou-

veau Littré, 1978. / *Nouveau dictionnaire des difficultés du français moderne*, HANSE, J., Duculot, 1983. / *Petit Larousse illustré*, Larousse, 1986. / *Quid*, FREMY, D. et M., Robert Laffont, 1983, 1984, 1985. / *Syntaxe du français contemporain*, SANDFELD, K., 3 vol., Droz, 1928, 1936, 1943. / *Syntaxe du français moderne*, 2^{ème} édition, LE BDOIS, G. et R., 2 vol., Picard, 1967. / *Trésor de la langue française*, tome 1-12, Centre National de la Recherche Scientifique, 1971-87. / *Vocabulaire économique et financier*, BERNARD, Y. et COLLI, J.-C., Éditions du Seuil, 1976.

「医学生物学大辞典」, 内菌・北本他監修, メチカルフレンド社, 1983. / 「医学大辞典」大改訂版, 南山堂, 1978. / 「岩波小辞典」各編, 岩波書店. / 「岩波数学辞典」第3版, 日本数学会編, 岩波書店, 1985. / 「岩波生物学辞典」第3版, 八杉龍一他編, 岩波書店, 1983. / 「岩波西洋人名辞典」増補版, 岩波書店, 1981. / 「岩波理化学辞典」第3版増補版, 玉虫文一他編, 岩波書店, 1981. / 「学術用語集」各編, 文部省. / 「ギリシア・ローマ神話辞典」, 高津春繁著, 岩波書店, 1960. / 「キリスト教大事典」, 教文館, 1963. / 「クラウン仏和辞典」第2版, 大槻鉄男他編, 三省堂, 1983. / 「研究社新英和大辞典」第5版, 小稲義男他編, 研究社, 1980. / 「言語学事典」, A. マルティネ編著・三宅徳嘉他訳, 大修館書店, 1972. / 「現代カトリック事典」, J. A. ハードン編著・A. ジンマーマン監修・浜寛五郎訳, エンデルレ書店, 1982. / 「現代フランス語表現辞典」, ベロー, ランフォード著・渡辺他編訳, 大修館書店, 1981. / 「現代フランス語法辞典」, P. リーチ他著, 大修館書店, 1975. / 「現代フランス語名詞活用辞典」, 大賀正喜著, 大修館書店, 1979. / 「現代フランス前置詞活用辞典」, C. ロベルジュ他著, 大修館書店, 1983. / 「現代フランス類語辞典」, P. リーチ他著, 大修館書店, 1978. / 「現代用語の基礎知識」1986年版, 自由国民社, 1986. / 「広辞苑」第3版, 新村出編, 岩波書店, 1983. / 「時事経済フランス語」, 松本正著, 第三書房, 1973. / 「事典現代のフランス 新版」, 新倉俊一他編, 大修館書店, 1985. / 「小学館ランダムハウス英和大辞典」パーソナル版(全1巻), 小学館, 1979. / 「新音楽辞典 楽語」, 秋元他著, 音楽之友社, 1978. / 「心理学事典」新版, 梅津・宮城他編, 平凡社, 1981. / 「図解解剖学事典」, 山田英智監訳・石川春律・広沢一成訳, 医学書院, 1974. / 「スタンダード和佛辞典」, 鈴木信太郎監修・朝倉季雄他著, 大修館書店, 1970. / 「精神医学事典」, 加藤正明他編, 弘文堂, 1978. / 「精神分析用語辞典」, ラブランジュ, ボンタリス著・村上監訳, みすず書房, 1977. / 「世界大百科事典」全35巻, 平凡社, 1972. / 「大百科事典」全16巻, 平凡社, 1985. / 「地学事典」, 端山他編, 平凡社, 1982. / 「哲学事典」, 林・野田他編, 平凡社, 1971. / 「日英仏独対照語付 服飾辞典」, 石山彰編, タヴィッド社, 1977. / 「日本国語大辞典」全20巻, 日本大辞典刊行会編, 小学館, 1972-76. / 「日本大百科全書」全25巻, 小学館, 1-14巻, 1984-87. / 「仏和大辞典」, 伊吹武彦他編, 白水社, 1981. / 「仏和理工学辞典」三訂増補版, 日仏理工科会編, 白水社, 1982. / 「フランス語経済記事の読み方」, 松本正著, 有斐閣, 1983. / 「フランス文法事典」, 朝倉季雄著, 白水社, 1955. / 「ラルース言語学用語辞典」, J. デュボワ他著・伊藤見他編訳, 大修館書店, 1980. / 「ラルース・フランス料理小事典」, 日高達太郎・小野正吉監修, 柴田書店, 1978. / 「リーダース英和辞典」, 松田徳一郎他編, 研究社, 1984. / 「ローマ・ミサ典礼書の総則」, カトリック中央協議会, 1980. / 「ロワイヤル仏和中辞典」, 田村毅他編, 旺文社, 1985.

A, a [a] n. m. inv. フランス字母の第1字 [l'a, le a]. **a** antérieur 前舌の a [a]. **a** postérieur 奥舌の a [ɑ]. **a** nasal 鼻音の a [ɑ̃]. de **A** à **Z**; depuis **A** jusqu'à **Z** 一から十まで, 初めから終りまで. ne savoir ni **A** ni **B** いろはのいも知らない. prouver par **A+B** (**A** plus **B**) 数学的正確さで証明する.

A 1. 【元素記号】**【古】** argon アルゴン【現用は Ar】. 2. 【楽】**【古】** イ音; イ調【今日では la, 英独では現用】. 3. オーストリア【自動車識別記号】.

A 【略】1. Altesse 殿下. S.A. le prince de M M 大公殿下. 2. autoroute 高速道路. A1 高速1号線【Paris-Lille 間】. 3. 【テニス】30A [trüta] サーティオール. 4. atomique 原子の bombe **A** 原子爆弾. 5. 【物】ampère アンペア; masse atomique 原子質量. 6. 【楽】alto アルト.

a [a] avoir の直現.

a 【略】1. are アール. 2. atto- アト【10⁻¹⁸】.

Å 【略】angström オングストローム.

A 2 【略】Antenne 2 フランス国営第2テレビ.

a¹- [a] (ヲ) 【PREF】「方向, 目的」の意【異形: ac-, ad-, af-, al-, am-, an-, ar-, at-】: abaisser, affluer, allonger, attirer.

a²- [a] (ヲ) 【PREF】「欠如, 否定」の意【異形: an-】: amoral, analphabète.

à [a] prép. 【冠詞との縮約形: à+le → **au** [o], à+les → **aux** [o]; 大文字の場合は「」を省略して **A** とすることもある】

【A】 状況補語を導く 1. 【空間・時間的な方向】へ, に; まで. aller **aux** États-Unis アメリカへ行く. aller **au** dentiste 【話/方言】歯医者へ行く (= chez le dentiste). monter des caisses **au** grenier 箱を屋根裏部屋に上げる. Au travail! 仕事にかかれ. de Marseille à Lyon マルセユからリヨンへ. du matin **au** soir 朝から晩まで. d'ici à cinq minutes 今から5分間. venir à l'aide de qn 人を助けに来る. Au secours! 助けてくれ! À l'assassin! 人殺し!

◇ REM. de ... à 「から...へ」は数量の表現にも転用される: ville qui compte de sept à huit mille habitants 人口七千から八千の町. さらに de を省いて: trois à quatre cents francs 三, 四百フラン.

◇ REM. 〈動作名詞+à〉の例: voyage à Londres ロンドンへの旅行.

2. 【空間・時間的な位置】に【おいて】, で. Il reste **au** Japon. 彼は日本に留まっている. passer deux mois à l'hôpital 病院で2か月過す. cogner sa tête **au** plafond 天井に頭をぶつける. à deux kilomètres d'ici ここから2キロの所で. Nous sommes à Noël. 今日がクリスマスだ. J'aimais les romans à vingt ans. 20歳の時に小説が好きだった. demain à trois heures 明日3時に. À lundi! ではまた月曜日. **au** printemps 春に【他の季節については en été, en automne, en hiver】.

à (前置詞)

① 【方向】へ, に. aller **aux** États-Unis アメリカへ行く. → **【A】** 1.

② 【場所・時】に【おいて】, で. rester **au** Japon 日本に留まる. demain à trois heures 明日3時に. → **【A】** 2.

③ 【所属】の, に属する. Ce parapluie est à Jean. この傘はジャンのです. → **【A】** 3.

④ 【手段】によって, による. aller à pied 徒歩で行く. avion à réaction ジェット機. → **【A】** 5, **【D】** 3.

⑤ 【価格】(いくら)で, の. des fruits à dix francs le kilo キロ10フランの果物. → **【A】** 9.

⑥ に【対して】. donner des gâteaux à ses enfants 子供たちにお菓子をやる. obéir **aux** ordres 命令に服従する. → **【D】** 1, 2.

⑦ のための. tasse à café コーヒー茶碗. chambre à coucher 寝室. → **【D】** 1.

⑧ のある, 持った. pantalon à rayures 縞のズボン. → **【D】** 4.

【à+不定詞】

⑨ 【動詞】commencer à parler 話し始める. → **【D】** 2.

⑩ 【形容詞】bon à manger 食料に適する. → **【C】** 3.

◇ REM. à+国名: en France 「フランスへ(で)」に対する **au** Japon 「日本へ(で)」のように子音字で始まる男性国名の前では **à** を用いる. à+島名: en Corse 「コルシカ島へ(で)」に対する **à** Malte 「マルタ島へ(で)」, **à** Terre-Neuve 「ニューファンドランド島へ(で)」のように, ヨーロッパの小島や遠い島については **à** を用いる.

◇ REM. 〈動作名詞+à〉の例: séjour à Rome ローマ滞在.

3. 【所属】の, に属する. Il est à Jean, ce parapluie. この傘はジャンのです. La décision est à vous. 決定はあなたがすべきだ. C'est à vous de (【話】) **à** parler. あなたの話す番だ; あなたが話すべきだ. C'est à vous, あなたの番だ. À nous deux! ⇒ deux pr. C'est très gentil à vous. ご親切にありがとう. C'est bien aimable à vous de m'inviter. お招き下さってありがとう.

◆ 【名詞+à】un ami à lui 彼の友人の一人. C'est mon avis à moi. それは私の意見です【所有形容詞の強調】. sa mère à elle 彼女の母【所有者の明示】. le fils au père Benoit 【俗/方言】ブノワおやじの息子(=du père Benoit). Malheur à eux! 彼らに禍あれ.

4. 【起点】で, から. puiser de l'eau à la fontaine 泉で水を汲む. emprunter qc à qn 人から何を借りる (【B】1 参照).

5. 【手段・様態】によって, で. avancer à la lueur d'une torche たいまつの光で進む. peindre à l'huile 油絵をかく. Je l'ai fait à moi (tout) seul. 私一人でそれをやった. aller à pied

(à cheval) 徒歩で(馬で)行く。à bicyclette (à moto) 自転車(オートバイ)で [en も用いられる]。vendre à crédit 掛売りを。fermer à clef 鍵をかける。parler à haute voix 大声で話す。vivre à sa fantaisie 気ままに暮す。à la + 形容詞女性形(固有名詞)...風に(の) [à la は à la façon (manière, mode) [de] が略されたもの]。à la française フランス風に。perruque à la Louis XIV ルイ14世風のかつら。

◇ REM. 無冠詞名詞・数詞を重ねる成句, corps à corps, mot à mot, deux à deux などについては各語参照。

◆ [+inf.] passer sa vie à ne rien faire 何もせずに一生を過す。

6. 《原因・同時性》によって, de. Au moindre vent, les feuilles s'agitent. わずかな風にも葉が揺れ動く。À ces mots, il se leva. その言葉で彼は立ち上がった。Je l'ai reconnu à sa voix. 私は声で彼と分かった。à ce que je crois 私の信ずるところによれば。◆ [+inf.] Il m'agace à toujours répéter la même chose. 彼は常に同じ事を繰返して私をいら立たせる。À vivre ainsi, vous allez vous abîmer la santé. そんな生活をしていると健康を損ないますよ。avoir de la joie (de l'intérêt, de la répugnance) à + inf. ...することに喜び(興味, 嫌悪)を感じる。Il y a toujours de la tristesse à partir. 旅立ちは常に悲しいものだ。à y regarder de près よく見れば。à vrai dire 実を言えば。

7. 《結果・程度》[に至る]まで, ほど; ...したことに。À ma grande surprise, il refusa. 驚いたことに彼は拒絶した。rire aux larmes 涙が出るほど笑う。blessé à mort 致命傷を負わせる。◆ [+inf.] être bouleversé à ne savoir plus que faire 動転してどうしたらよいかわからなくなる。s'en nuier à mourir 死ぬほど退屈する。C'était à s'y tromper. それまるで錯覚を起すくらいだった。

8. 《目的》(の)ために; ...するに。employer tout son salaire à l'achat de vêtements 衣類を買うのに給料を全部使う。mettre tout son temps à finir un travail 仕事の完成にかかりきりになる。

9. 《数量・価格》(いつく, いくら)で。Ils sont venus à cinq. 彼らは5人で来た。À quel prix le vendez-vous? それをいくらで売りますか。des fruits à dix francs le kilo キロ10フランの果物。voiture qui roule à cent à l'heure 時速100キロで走る車。timbre à vingt centimes 20サンチムの切手。

10. 《割合》につき。payer à la journée (à l'heure) 1日(1時間)いくらで払う。vendre à la bouteille (à la douzaine) 1本(1ダース)いくらで売る。A est à B ce que (comme) C à D. AのBに対する関係はCのDに対する関係と同じである。Deux est à trois ce que quatre à six. 2の3に対する比は4の6に対する比に等しい。

③《目的語・属詞・内容上の主語を導く》1. 《動詞+直接目的語+à》に[対して], のために; について。donner des gâteaux à ses enfants 子供たちにお菓子をやる。se mettre au travail 仕事にかかる。disputer la première place à ses camarades 仲間と首席を争う。préférer le cinéma au théâtre 演劇より映画を好む。emprunter de l'argent à un ami 友人から金を借りる[acheter, enlever, prendre, voler など

除去・奪取を表す動詞とともに「から」の意を示す]。

◇ REM. <使役・知覚動詞+inf.>の構文で動作主を表す[à+名詞]については faire IV ③ 3, laisser ⑧, entendre ④ 1を参照。

◆ [+inf.] aider son père à diriger l'entreprise familiale 父の会社経営を助ける。forcer qn à signer un papier 人にむりやり書類の署名をさせる[他に, autoriser, décider, encourager, engager, habituer, inviter, obliger などの動詞がこの構文をとる]。◆ [+à ce que+subj.] Veillez à ce que tout soit rangé. 全部きちんとするように注意してください。

2. 《動詞+à》obéir à ...に服従する。penser à ...のことを考える。manquer à la règle 規則を破る[他に consentir, convenir, jouer, participer, plaire, ressembler, succéder, suffire; faire attention; s'appliquer, s'attendre など]。◆ [+inf.] renoncer à poursuivre ses études 勉学を続けるのをあきらめる。commencer à parler 話し始める[他に chercher, réussir, tenir; se mettre, se préparer など]。[en] venir à + inf. ⇒ venir ④ 4, ⑩ 2。

◆ [à ce que+subj.] Je consens à ce qu'il vienne. 彼が来ることに同意します。

◇ REM. <avoir (donner, trouver, laisser) [qc] à + inf.>で [の] [+inf.] は義務・可能性を示す: J'ai une lettre à écrire. 書かねばならぬ手紙が一通ある。donner à manger à ses enfants 子供たちに食べ物を与える。À boire! [省略的に] 飲物をくれ。Ici, il y a toujours à faire. ここではいつもする事がある。詳しくは各語参照。

◇ REM. <動作名詞+à>の例: achat au marchand 商人からの買入。obéissance des enfants à leurs parents 子供の親への服従。

3. 《属詞》[+inf.] [en] être à + inf. ⇒ être! I ① 1. rester une minute à réfléchir ほんのしばらく考える。être assis toute la journée à lire des romans 一日中腰かけて小説を読んでいる。Je l'ai pris à voler un livre. 私は彼が本を盗んでいるところを捕まえた。La voici à pleurer comme une fillette. そら彼女は小娘のように泣いている。◆ [le premier, le dernier, le seul, 数詞とともに] Vous êtes le premier à le remarquer. あなたがそれに気づいた最初の人だ。Ils étaient trois ou quatre à partager des idées. 彼ら三、四人がきみと考えを同じくしていた。

4. 《内容上の主語》[+inf.] Il me reste à finir ces quelques pages. 私はまだ何ページかやっしまわなくてはならない。

④《形容詞の補語を導く》1. 《比較・類似・対立》より; に, と。se croire supérieur aux autres 他人より優れていると思う[同様に, inférieur; antérieur, postérieur; intérieur, extérieur などとも à をとる]。voiture pareille à la mienne 私のよく似た車。conduite contraire au bon sens 良識に反する行い。

2. にとつて; に対して。utile à tous 万人に有益な。défaut propre à la jeunesse 若者に特有の欠点。être sujet au mal de mer 船酔いにかかりやすい。

3. [+inf.] ...するために。Il est lent à répondre. 彼は返事をするのが遅い。être prêt à partir 出発の準備ができてい。◆《受動的》spectacle beau à voir 見て美しい光景。bon à man-